



写真1：旧渋沢邸「中の家」
© 深谷市

旧渋沢邸「中の家」^{な かん ち} (埼玉県深谷市)

埼玉県北部に位置する深谷市は、北方に利根川が流れ群馬県に隣接し、県下一の野菜の産地となっている。

渋沢栄一は現在の深谷市血洗島に生まれ、その生地には旧渋沢邸「中の家」^{な かん ち}がある。「中の家」とは、一族の各家の位置関係に由来する。

栄一の父、市郎右衛門は渋沢一族の「東の家」とよばれる家に生まれ「中の家」に婿入りした。学問に長け、勤勉であり、家業である藍玉づくりにおいて重要な藍葉の鑑定にかけては厳しい一方、地域の困っている人々への世話や支援は惜しみなくしたという。養蚕、藍玉づくりとその販売、雑貨屋・質屋業も行い、それまで衰退していた「中の家」を再興した。

栄一は、父の藍葉の仕入れや得意先まわりに同行し学び、この経験が実業家の出発点となる。14歳の時に祖父と買い出しに出掛けた際、好奇心から一人で買い付けに行き、最初は相手にしなかった農家の人々も「この葉は肥料が^{しめ}粕でない」「乾燥が足りない」など栄一の的確な指摘に驚き、上質の葉を安く仕入れることができたという。

母えいは慈悲深い逸話が多く残され、愛情にあふれた人柄で知られる。村のハンセン病を患っていた女性に着物や食事の世話、入浴の手伝いをしたという。そうした影響を受け、社会福祉・医療事業に取り組むことになる。

23歳でこの地を離れた栄一は、後に近代日本経済の父として、「道德経済合一説」を唱え、数々の企業の設立、社会公共事業、福祉・教育機関の支援に取り組んだ。

この深谷の地で暮らした日々には、渋沢栄一の原点がある。

参考文献

深谷市渋沢栄一記念館 http://www.city.fukaya.saitama.jp/shibusawa_eiichi/index.html

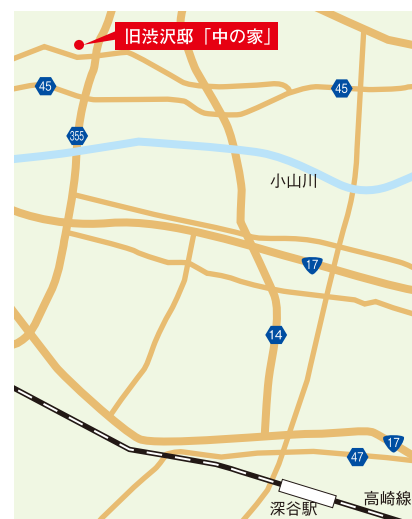


写真2：「中の家」の土蔵前、
生き活きと天に向け育つ藍